加　佐

学校だより　５月号
令和6年5月1日
舞鶴市立加佐中学校
TEL 83-0004　FAX 83-3201
https://kasa-maizuru.edumap.jp/

思い出の役割

舞鶴市７中学校の先陣を切って、加佐中３年生は５月１５日から修学旅行に出掛けます。広島での平和学習を中心にして、現在は平和記念公園にお供えする千羽鶴を折りながら、事前学習をしたり役割分担をしたりしています。お子さんの修学旅行が近づくと、ご家族の皆さんもご自身の修学旅行を思い出すことでしょう。私もこの時期になると中学生当時を思い返すのですが、同じく広島に行ったはずなのに「何を学んだか？」を述べられるほど正確な記憶がないことに気づきました。戦争の悲惨さを痛感し、反戦の決意は当時の経験から今に至るまで自身の身体にしみ込んで形づくられていることは間違いありません。しかし時間とともにやっぱり忘れてしまう部分も多くあって「修学旅行の役割とか意味って何だろうか？」と３０年以上経って考えてしまうのです。はてさてと心の引き出しを探ってみると、楽しい経験だけでなく、つらく苦しかった経験でさえ、思い返したそのあとに少しだけ元気になっていることに気づきます。「細かなことは忘れちゃったけど、楽しかったのは覚えてる。」のそのあと・・・です。「あのときは苦しくって逃げ出したかったけど、なんとか乗り越えたんだよな。」のそのあと・・・。ちょっと元気になっていませんか？学校教育では、様々な場面で体験的な活動を取り入れています。体験と学習内容を結びつけることが第一義ですが、そんな毎日の少しずつが「中学校の思い出」として刻まれて、子どもたちが将来、困難に立ち向かうときに「あんな思い出」や「こんな思い出」が“元気の素”になるならば「いい修学旅行にするぞ！」と気合が入ります。行程どおり無事に、全員がイイ顔で帰ってくる。では「行ってきます！」

成瀬あかりに出会って

本屋大賞で話題の「成瀬は天下を取りにいく」を読みました。主人公の“成瀬あかり”とその友人の関わり、大津を舞台としたちょっと懐かしさを含んだ情景描写に引き込まれます。成瀬が中学２年生の頃から物語が始まりますので、教員の立場からは「この子がクラスにいたら痛快で面白いだろうけど、担任としてはちょっと苦労するかも。。」とそんな楽しみ方をしました。

文部科学省が示す「主体的・対話的で深い学び」の“対話”は「過去の偉人や、本や映画に登場する人物に触れ合うこと」もその解釈に含まれます。成瀬の表情や表現をマネしたくなったり決断力・実行力に「私もそうなりたい」と影響を受けたりする同年代の少年少女が多くいることでしょう。「成瀬は」学校図書室にも置いています。そのほか本屋大賞の過去の受賞作やノミネート作も多数。結構充実しているんですよ。

ぜひ手に取って「いい対話」をしてください。

舞鶴市立加佐中学校　校長　阪口靖敬
教職員一同

「朗読書の様子」

「図書室の新刊」